

2021 年度大学コンソーシアムとちぎ「大学を超えた共同研究支援事業」報告書

所 属 機 関 名	学校法人 自治医科大学看護学部
団体・グループ等名	産業動物の癒し研究会
研 究 代 表 者 名 (所 属 部 署)	平尾温司 (自治医科大学 看護学部)
研究連携担当者名及び連絡先	長尾慶和 (宇都宮大学 農学部教授・附属農場長) 角川志穂 (自治医科大学 看護学部 准教授) 鹿野浩子 (自治医科大学 看護学部 講師)
研 究 連 携 校 名	自治医科大学, 宇都宮大学
関連自治体・経済団体等名	

1. 研究事業名	コロナ禍におけるアニマルセラピー ～ウシの癒しをデジタルに～
2. 実施年度	2021年度
3. 研究成果等	【背景および研究目的】 アニマルセラピーとは、ヒトと動物が直接触れ合うことで、人の心に癒しを与えることである。アニマルセラピーはストレス解消になるだけではなく、認知症やうつ病の症状の改善が期待できることから、医療や福祉においても用いられている。 一方、令和2年の春からは新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のため、我々の生活様式は大きく様変わりしてしまった。外出が制限され、多くの時間を家庭で過ごすこととなり、ストレスを抱える人は急増した。また、COVID-19は我々の学生実習にも影響を及ぼし、宇都宮大学農学部附属農場で実施してきた看護学部生の実習もオンライン開催を余儀なくされた。そのため、我々はオンライン実習用にウシの実習動画を作製した。この動画を試聴したところ、その動画は臨場感に溢れており、ウシの癒しを感じさせるものであった。このような動物の動画がアニマルセラピーとして利用できるものであれば、コロナ禍のように家庭での拘束時間が増えて、ストレスを抱える方々に癒しを提供できるものとする。 そこで、本研究は動画映像による動物の癒しがアニマルセラピーとして利用できるかどうか検討することを目的とした。 【研究方法】 動画は宇都宮大学農学部附属農場で飼育されているウシ（ホルスタイン種）を用いて作製した。動画は放牧中のウシを主に撮影した（約10分程度）。動画の視聴は、自治医科大学看護学部生16名に依頼した。動画の視聴後、自由記載により回答を得た。得られた回答はキーワードを基にカテゴリー化し集計した。また、カテゴリー間において、統計学的有意差が見られるかどうか、一元配置分散分析を用いて解析した。 【結果】 1) カテゴリー別の集計結果 カテゴリー別に集計した結果を表1にまとめた。カテゴリーの内容は記述の件

	数が多い順番に、ウシに関する記述、ヒトとウシの関係に関する記述、放牧に関する記述、命に関する記述、その他に区別できた。一元配置分散分析の結果、カテゴリ間で有意差は確認されなかった。 表1 自由記載によるアンケート結果 ウシに関する記述（17件）34％ ヒトとウシの関係に関する記述（11件）22％ 放牧に関する記述（8件）16％ 命に関する記述（8件）16％ その他（6件）12％ 2) ウシに関する記述 記載件数が最も多かったウシに関する記述の詳細を表2にまとめた。詳細については「ウシに対してはペットのように感じる。」、「ウシは可愛い。」、「ウシと実際に触れあってみたい。」、「動画でも触れ合った気になれた。」等の記述が得られた。 表2 ウシに関する記述の詳細 ウシはペットのように感じる（4件） ウシは可愛い（3件） ウシと実際に触れあってみたい（3件） 動画でも触れ合った気になれた（2件） その他（5件） 【考察】 カテゴリ間で有意差は確認されなかったが、ウシに関する記述の内容から推測すると、視聴者はウシを家畜というよりはむしろ、伴侶動物のように感じているのではないかと考えられた。この結果より、少なくともウシの動画にもアニマルセラピーのような効果が期待できるのではないかと考えられた。 その他にも「ウシと実際に触れあってみたい。」、「動画でも触れ合った気になれた。」等の記述が見られたことから、動画には視聴者に対して実物のウシに触れてみたいと動機を促す効果もあると考えられた。
4. 今後の課題及び発展性	【今後の課題】 1) 動画に関して 動画については、今後は4Kカメラ等の高画質の機材を用いる必要があると思われる。また、180度あるいは360度カメラを使用し、更なる臨場感の向上を図る必要があると考える。 2) 癒し効果の検討 今後はアンケートだけではなく、動画による癒し効果を科学的に検証する必要があると考える。方法としては脳波の測定や脈拍数の変化、あるいは唾液中のストレスマーカの測定等が挙げられる。 【発展性】 従来のアニマルセラピーでは、イヌやネコが主流であり、当然ながらウシやウマのような大動物は家庭や病室での実施は不可能であった。しかし、本課題のようにアニマルセラピーを動画とすることで、より多くの方が家庭で、また、病室で療養中の方も動画によるアニマルセラピーを利用できるようになり、アニマルセラピーの普及に貢献できると思われる。

	一方、動画以外に癒しの効果を得る方法に、ヒーリングミュージックやアロマセラピー等の方法もある。本課題は動画を用いた方法であるため、これらの音楽や精油による癒しとの併用も可能で、癒しの相加効果も期待できると考える。 また、本課題はウシを用いている。そのため、医療系以外の利用方法として酪農業のPRに利用できると思われる。栃木県は乳牛の飼育頭数が、北海道に次いで全国第二位と酪農が盛んな県である。「栃木のウシの癒し」をキャッチコピーとし、動画サイトやSNSでウシの動画を配信して拡散させれば、栃木県の乳牛およびミルクは餃子に次ぐ新たな観光資源になると考えられ、栃木県の経済活動の発展にも貢献できるのではないかと考える。
--	---